

久留米

〔March 24, 2015〕

高専通信

第78号

久留米工業高等専門学校
〒830-8555 久留米市小森野1-1-1
TEL:0942-35-9300
<http://www.kurume-nct.ac.jp/>

卒業生・修了生に贈る言葉
「全てから、全てを、生涯学ぶ」

本科卒業生・専攻科修了生の皆さん、御卒業・修了おめでとうございます。保護者並びに御家族の皆様方にも心よりお祝い申し上げます。

科学技術が加速度的に進歩する現代において、社会から取り残されないためには、皆さんは卒業後も日進月歩の知識や技術を学び続けることが必要です。在学中は高専に来て授業を受けていれば良かった訳ですが、社会では自ら学ばなければなりません。誰から、何を学んでいけば良いのでしょうか？

小説「宮本武蔵」などで良く知られている作家の吉川英治(1892-1962)は、座右の銘を「我以外皆我師」(われ以外みな我が師)としていました。吉川は「宮本武蔵」の中で、武蔵に、兵法を父、諸国の先輩、山川などの自然をみな自分の師として学んだと言わせています。自分以外の全てから学ぶ。この謙虚で飽くなき探究心が、数々の人気小説を生み出す源となっていたのだと思います。

小説の剣豪宮本武蔵さんながら自然から学べることは実際に多く、今日では生物の機能や構造を模倣するバイオ・ミメティクス(生物模倣)により、トンネル突入時の空気の衝撃を低減させるためにカワセミのくちばしからヒントを得て先端部を尖らせた新幹線、鮫の皮に似た水抵抗の少ない素材による水着、カタツムリの殻を真似た水だけで汚れが落ちる建物の外壁タイル、ヤモリの足先の仕組みを応用した粘着テープなど、様々な製品に応用されています。

また、日本の伝統的な「折り紙」からも学べます。一瞬で広げたり畳んだりできる「ミウラ折り」は、既に地図や宇宙探査機の太陽電池パネルなどに使用されています。近年では、折り紙の設計をコンピュータで行う「計算折り紙」(Computational Origami)の研究が進められたり、折り紙の手法を量産品開発に広く応用しようとする「折り紙工学」という考え方が提唱されたりして、ロボット、医療、建築など色々な分野で研究開発が進められています。



久留米工業高等専門学校
校長 上田 孝

知的な好奇心や探究心を持ち続け、全てから学ぶ姿勢さえあれば、歴史の偉人や実業家など先人の成功例や失敗例はもとより、自然や折り紙さえも学びの素材とすることができるのです。

ところで、皆さんは自分の専門分野以外の知識は要らないと思いませんか？学問は人類が整理した便宜上の体系であり、現実を起こることは学問に合わせてはくれません。現実の課題に対処するためには、学問の垣根を越えて知識や技術を総動員することが求められます。

白川英樹筑波大学名誉教授は、大学院進学時は自分の希望とは違う物性の研究室に配属されましたが、そこで金属や半導体などの研究に接したことが、2000年にノーベル賞を受賞した導電性高分子の研究に役立ったそうです。島津製作所の田中耕一氏は、大学では電気工学を学びましたが、入社してからは畑違いの化学の実験に従事することになり、この異分野での取組が2002年のノーベル化学賞受賞につながったと述べています。

幅広く質の高い知識や経験を得ることによって多くの引き出しを持つことが、独創的な発想や発明につながります。自分の専門以外とか、理系とか文系とか、学ぶ範囲を自ら狭めずに、全てを学ぶ姿勢が大切です。

20世紀後半の科学技術の進展により、人々の生活は便利になる一方で技術の陳腐化は急速に進み、8ミリ映写機、カメラのフィルム、ポケベル、ワープロなど、多くの製品がこの50年の間に職場や家庭に爆発的に普及し、今では消え去りました。生涯にわたって最新の知識や技術を学び続ける必要性については、自明の理と言えます。

皆さんが、全てから、全てを、生涯学び続けることで、自身の生活とともに世の人々の生活をより良くしていくような、実り多き人生を過ごされることを願って止みません。

卒業生の言葉

二兎を追え

機械工学科 5年 内田 敦之

先ず初めに我々のような出来の悪い問題児揃いの機械工学科50期生を最後まで見捨てずにご指導頂いた先生方に心より御礼申し上げます。先生方から愛情を持って叱って頂いたことはこの人生での何よりの財産です。この経験を踏まえ、各々の進路で久留米高専卒の名に恥じぬよう日々精進していく所存です。

本題に入ります。私事で恐縮なのですが、最後の1年間で感じたことがありますのでそれを記して自分と同じ悩みを持った人のためになればと思います。私は入学と同時にラグビー部に入部し4年生までどうにかこうにか学業と両立しました。私は成績に関しては良くても人並み程度ですが大学に編入したいと入学時から考えていたので4年の大会が終わって受験のため休部するつもりでした。しかし大会が終わると主将に選ばれ悩んだ結果受験と部活を両立することにしました。正直部活やりながらだと大学は厳しいだろうと思い専攻科を第一志望にしようかと考えましたが、諦めきれず大学を受験することにしました。ただここで一つ不安だったのが大学に不合格だった時に「専攻科推薦で受けときゃよかったな」「部活やってるから仕方ないか」と後悔したり言い訳する自分が思い浮かんだことです。しかし一度決めたことなのでやりきろうとひたすら勉強しました。そして試験に挑み大学には落ちました。落ちたと知ったときは悲しかったですが「専攻科推薦で受けときゃよかったな」「部活やってるから仕方ないか」とは微塵も思いませんでした。本気で勉強した分「これが自分の実力なんやな」と感じたので部活を言い訳にすることもありませんでした。そこからは部活一本に集中できることが嬉しくてこちらもひたすら頑張りました。そしてなんとか全国大会へ行き、3位という結果になりました。

「二兎を追わざる者 二兎を得ず」とある高偏差値の花園出場校のモットーです。勉強も部活も死ぬ気でやればその両方で成功できることを意味します。私は部活に関してはそれこそ脳震盪になろうが関節がずれようが文字通り「死ぬ気」でやってきました。しかし勉強に関しては本気ではやってましたが「死ぬ気」ではやっていなかったように思います。それが今回の二つの結果の差かなと思います。

えー何が言いたいかというと「確信を持ってやれ」ということです。私の場合は大学に合格することに確信を持っていませんでした。だから本気でやったつもりでもどこか心に隙間がありました。ぜひ在校生の皆さんには確信を持って死ぬ気で二兎を追って頂きたいと思います。ありがとうございました。

6年間の思い出

電気電子工学科 5年 牛島 淳樹

卒業生から送る言葉には「青春は短い」といった文言が多いように思います。実際、高校生や大学生は3年間ないし4年間しかなく、非常に短く感じるのは仕方ないのかもしれませんが。しかし、私たちの所属するこの久留米高専は5年ほどの在籍期間があり、同年代の友人たちよりも長い期間、同じ場所に留まることになります。そう考えれば、私たちの青春は長い、と思うことも出来るのではないのでしょうか。高校生ほど受験勉強に追われることも少なく、大学生のように就職活動に膨大な時間を割くこともあまりありません。もちろん、高専生ならではの苦労が多いのも承知はしています。しかし、比較的自由に使える時間が多いのは事実です。その自由な時間に「何をするか」が学校生活を充実させる鍵となるのではないのでしょうか。

自由時間を活用するという点では、この学校は非常に優れた場所のように思います。部活動は豊富な種類があり、アルバイトも許可されています。また、学生が作り上げる高専祭や文化部発表会などのイベントは参加する側も、運営する側も大きな思い出になりやすいものだと思います。

私自身、部活、アルバイト、イベントと全て体験してきましたが、それぞれ毛色の違った思い出となりました。部活動ではロボコンに所属し、一つの機体を作り上げるために部員同士で議論をしたのは、自分の知識を増やすのに役立ちました。また、アルバイトについては、上下関係の勉強になりました。そしてイベントでは、大勢で何かをすることの楽しさを知ることができました。中学までのような先生にやらされるものではなく、自分たちの意思で作上げたものというのは、心の底から楽しめるものだと思います。実際、この学校のイベントは参加させられている学生は少なく、自分から楽しもうという意思を持って参加している学生ばかりのように思います。でなければ女装した売り子やコスプレをした人間が学校内に溢れかえるわけがありません。私も迷彩服で出歩いていたので他人のことは言えませんが。

以上3つのことから共通して学んだことは、誰かと何かをするのは楽しいということ、何かをするときは、それを楽しもうとする姿勢が大事だということです。楽しんだ事が後々、良い思い出となっていくのです。私たちの青春は長いのです。その分、多くの思い出を持って卒業できるよう頑張ってください。

卒業生の言葉

卒業にあたって

制御情報工学科 5年 西見 武

私が高専に入学した動機は大変不純なものだった。それは高専の水泳のレベルが低いため、簡単に全国大会に行けると聞いたからだ。大会の遠征が大好きな私はすぐに飛びついた。「高いレベルで勉学に励むことができ、整った環境下でエンジニアになるための経験が accrue する。あとはまあ本当についてなのだけでも水泳の全国大会も狙えそうだ。」なんてことを建前にしつつこの高専の試験に合格した。

高専での生活は非常に濃いものだった。望み通り全国大会に出場することができたし、たくさんの友に出会うことができた。得意だったはずの数学に苦しめられたり、徹夜でレポートと格闘したこともある。そして何より大きかったのは音楽との出会いである。

もともと水泳のレースや勉強に集中する意図でよく音楽を聴いてはいたのだが、音楽が好きなクラスメイトに恵まれ、たくさんの曲に出会い、上述の通り不純な動機で入学した私ではあるが、音響系のエンジニアという夢を見つけることができた。この点だけをとりても、高専に進学するという選択に間違いはなかったと確信している。

在校生の皆さんに一言言葉を贈るならば、在学中に何か武器を見つけてほしい。それは知識でも経験でも一生の友でも構わない。二刀流でも三刀流でも構わない。強いて言うならば面接などで堂々と使えるものであってほしい。私は卒業後の進路として進学の道を選び、勉学の刃を鍛えることにしたが、この刃はいまはなにも斬れぬ鈍らである。しかし、音響系のエンジニアになる夢を原動力に、この刃を鍛えていくつもりだ。そして、いつかは研ぎ澄ました刃で未来を切り開いていきたいと考えている。こうも気取った書き方をしてしまい、この文章が皆さんの手に届くことを考えると、顔から火が出そうになるが、卒業生の言葉として心の片隅に置いて欲しい。

最後に、5年間お世話になった皆様方に感謝を申し上げ、この卒業生としての言葉を締めたいと思う。5年間本当にありがとうございました。

高専らしさ

生物応用化学科 5年 市丸 雄大

5年間の高専生活は、今こうして卒業生の言葉を書いていることが不思議に思えてくるほど非常に短いものでした。この5年間の中で、多くの人と出会い、青春を過ごし、様々な経験を通して人として成長することができました。そんな5年間の思い出に浸りながら振り返っていかうと思います。

入学式で5年間を共に過ごす同級生に出会いました。面白い人ばかりで、楽しい高専生活の幕開けでした。初めての授業はとて長く、慣れるまで大変でした。集中力はもちろん続かず、怒られることもありました。初めてのテストは赤点に怯え、5年間の中で一番必死に勉強した記憶があります。しかし、結果は赤点。少し落ち込みましたが、先輩から賢い点数の取り方などを教わり、無事に5年まで進級しました。

また、入学後の勧誘の強引さは今でも覚えています。私はその勧誘に負けてラグビー部に入部しました。しかし、今となっては正しい決断だったと思います。ラグビー部に入ってからこそ成長できたといっても過言ではないほど、この部活に育てられました。途中、挫折も経験しましたが、先輩や同期、先生たちの協力で乗り越え、5年間続けることができました。最後の大会では、全国3位になりました。奈良高専に敗れましたが、とても清々しい気持ちでした。仲間と共に最後まで戦い、悔いがないからだと思います。最高の思い出になりました。

あっという間の5年間を過ごし、もうすぐ卒業を迎えます。1年生の時に大人に見えていた5年生と同じ年になり、後輩たちにとって手本となる先輩になれたかわかりませんが、たくさんのお話を伝えてきたつもりです。後輩の皆さん、高専の自由な校風を活かして何事にも挑戦し様々な経験をしてください。そして、思い出をつくり、悔いの残らない高専生活を送ってください。

最後になりましたが、担任として御教授いただいた中畑先生、渡邊先生、松山先生をはじめ、生物応用化学科の先生方、数多くの先生方、久留米高専に携わるすべての方々に感謝申し上げます。5年間、楽しく過ごせたのも皆様のおかげです。本当にありがとうございました。



卒業生の言葉

修了生の言葉

高専での五年間

材料工学科 5年 井上 愛可

5年前の春。入学式で先生方や先輩方に温かく迎えられ、期待と不安で満ち溢れていた事を今でも覚えています。それからいろんな事を経験し、学びながら過ぎて行った時間は本当にあっという間でした。100分という長い授業についていくことに必死だった事や、お昼休みに何気ない事で友達と笑いあった事、部活で遅くまで練習していた事、委員会で一つの物を作り上げた事、お忙しい中先生方が私の長話に付き合ってくれた事、……。正直、卒業するという実感がなかったのですが、今こうして振り返ってみると「高専生活が終わるのか」と少し寂しい心境です。

高専生活で、級長や実行委員長など様々な役職をさせていただきました。その経験は楽しかったですし、元々人前で話すことが苦手だった私を大きく変えてくれました。勿論、それだけではなく、辛い事も沢山ありました。上手く状況が進行しなかったり、リーダーとしてまとめる事ができなかったり、本当に投げ出したいくなる様な事もありました。けれど、それでもやり遂げる事ができたのは私を支えてくれたクラスの皆や先生方、先輩方、後輩達、学生課の方々がいってくれたからこそだと思います。そんな方々に見守られ、私は"今の私"に成長できたのだと思います。

「高専って縦と横の繋がりが大切だよ」と1年生の時に先輩に言われたことを覚えています。その時は「そうなんだ」と軽い気持ちで受けとめていましたが、今思えばその言葉の重みが実感できます。自主性が問われる久留米高専だからこそ人との繋がりがとても大切であり、それが今後も一番重要な事であるという事をこの5年間で学ぶことができました。

何度も言うようですが、高専生活で学んだことは私の中でかなり大きなものです。こうして書かせてもらっているうちにも「楽しかったな」と心から思う事があり、またこんな楽しい思い出が沢山できたのは私の周りにいた皆さんのおかげなのだなどと改めて感謝の気持ちが込みあげてきました。最後になりましたが、この5年間、私を支えてくれた先生方、学生課の方、クラスの皆、そして家族の皆、本当にありがとうございました。3月に卒業して4月から社会人として新しい環境に巡り合うこととなりますが、この5年間をしっかりと胸に抱いて頑張っていこうと思いますのでどうか見守ってください。

専攻科修了を迎えて

機械・電気システム工学専攻 2年 鳥居 哲也

ようやく久留米高専生活を終える時が来ました。専攻科修了を迎えるにあたって、本科と合わせて7年間もこの学校に通っていたのだと改めて実感します。また、もうここに来ることもないのかと寂しく感じるとともに、新しい世界に踏み出すことへの喜びも感じています。

私は、機械工学科を卒業し、専攻科へと進学しました。専攻科では、専攻科研究を中心として、創造工学実験やインターンシップ、大学院の受験勉強など、忙しい毎日でした。特に印象に残っている2つについて書きます。1つ目は、専攻科研究です。専攻科研究では、本科でやっていた研究を継続して行っていました。研究においては、本科・専攻科ともに、先生に熱心に指導して頂きました。そのおかげで、研究のやり方や研究に対する考えを学ぶことが出来、研究を通して自分の能力を磨くことが出来ました。また、1年生のころから学会に参加させて頂くことが出来、他大学の発表や学会中で出会った方々からいろいろな話や意見を聞くことで自分の世界を広げることが出来ました。

2つ目は、受験についてです。私は、研究を行う中で大学院進学を決意しました。私にとって高専の入試以来となる7年ぶりの受験勉強は、とても大変でした。しかし、機械工学コースでは、全員進学を希望しており、ともに頑張る仲間がいたからこそ最後まであきらめずやり通し、合格することができました。

ここまで振り返ってみると、先生方や友人の助けがあったからこそ充実した高専生活がおくれたのだと改めて思いました。

これから、専攻科を卒業したことを誇りに頑張っていきたいと思います。

修了生の言葉

7年間を振り返って

物質工学専攻2年 川端 将真

7年間通ったJR久留米駅から久留米高専までの道のりは、何度も往復しているせいか長期インターンシップで2ヶ月福岡を離れていたはずなのに、戻ってきた後も懐かしいと感じさせないほどに馴染んだものになっていました。7年間を振り返ると一番長かった義務教育の小学校6年間よりも長い期間であり、自分のこれからと向き合う大切な時期を過ごしてきたこの場所はかけがえの無いものになると思います。

本科入学当初は予備知識が全く無かったため、中学校とは異なる開放的な雰囲気の前にただただ圧倒され、周囲に流されすぎないように踏ん張ることしか考えてなかった気がします。例えば中学校でも嫌というほど聞かされてきた勉強と部活の両立を実践しようと、努力はしていました。今振り返ると、結局流れに流されて思考停止気味だった部分もあるのかなと思います。ただ、本科5年間は色々な経験をして、悩んで選択してとても実りある時間だったと思います。専攻科に入学してからの2年間もまた、反省すべき点はたくさんありますがとても有意義でした。例えば専攻科の売りでもある創造工学実験や産業デザイン論等の演習を通じて自分達で企画したことを実行することの困難さを実感しましたし、専攻科研究論文では研究を他人に知ってもらうためにはストーリーが大切であることや自分の研究に対する理解の深さが問われるということを実感しました。また、専攻科では学外で開催される学会で一度発表することが義務です。初めての学会では見渡す限り大学院生ばかりでガチガチに緊張しました。しかし、ポスター発表を聞きに来てくださった方たちは純粋に興味を持って聞きに来てくれるため、議論が弾むたびとても充実した気分になりました。一方で、ポスターの前にいくら立っていてもほとんど誰も来ない場合もありました。その時は落ち込みもしましたがポジティブに考えるようにして、自分の研究をじっくり考え直す機会にしました。これらの経験はこれからの人生に生きてくると思います。

この春に修了して久留米高専を離れても、平均寿命まで生きることが出来れば人生は何十年と続きます。久留米高専は通過点です。ここの通過点で悩んで感じて考えたことを大切にこれからも頑張っていきたいと思います。最後にこの場をお借りして、お世話いただいた生物応用化学科の先生方をはじめ久留米高専の関係者の方々、クラスの仲間たちに感謝申し上げます。

退職教職員からの言葉

「お別れにあたって」

寮務主事 生物応用化学科 教授 泉本 英次

平成18年に着任して以来、早いもので9年の歳月が流れてしまいました。定年を待たずしての退職で、学生の皆さんや教職員の方々にご迷惑をおかけしたかと申し訳なく思っています。



化学会社の研究員としての経験を糧として、これまで化学工学や生物工学に関する実践的教育を志して取り組んできましたが、数式が出てくると思考の停止する子も多く、ストレスの多い講義であったかもしれません。授業では、工学の知識無くしてプラントは設計も運転もできないことを説き、現実のプラントがイメージできるような分かり易い授業を心掛けたつもりです。医薬品メーカーに勤務している卒業生などから、授業で習ったことが仕事に大変役立っていると聞かされ、嬉しく感じたものでした。

専攻科の授業では、英国インペリアルカレッジ留学中に開発に携わった、先進的なプロセスシミュレータgPROMSを講義・演習に取り入れました。単位修得者には開発元からソフトウェアのトレーニングコース履修証明書が発行されるようになり、研究開発業務にもシミュレーションが多用される今の時代に合った、実用的なスキルを修得してもらえたのではないのでしょうか。

一方、校務においては、専攻科主事と寮務主事の二度の主事職を務めさせていただきました。それぞれの立場で、個性豊かな学生の皆さんと向き合ってきましたが、青春の多感なこの時期に、掛け替えのない経験を積んで欲しいと願い指導に当たりました。特に寮務においては、自立した寮生会活動を期待して、役員諸君にリーダーシップの発揮を促してきました。クラスとは一味違った顔を見せながら、寮祭を始め数々の年間行事を、寮生会が中心となって取りまとめてくれました。体育祭における応援合戦の舞台もまた、多くの寮生にとってこの上ない自己主張の場になったことと思います。

教員は学生に教示し、指導する立場にあるわけですが、学生それぞれが異なる環境にあって、様々な性格と多様な価値観を備えた存在であることなど、多くのことを逆に教えられたような気がしてなりません。これからの社会の担い手となってくださるであろう若い人たちの育成に関わる機会を与えていただいたことをこの上ない幸せと感じています。久留米高専の在校生・卒業生・教職員の皆様に心よりの感謝を申し上げます、お別れの言葉といたします。

ありがとうございました。

退職教職員からの言葉

KNCT, be ambitious (久留米高専よ 大志を抱け!)

機械工学科 教授 櫻木 功

私にとって、42年間教育環境の素晴らしい筑後川と宝満川の合流地区、久留米高専で皆さんの協力を得て、大過なく過ごさせていただきましたことを光栄に思っております。皆さんに心から感謝申し上げます。ここでは素晴らしい先生方や学生に出遭ったことが私の宝物です。赴任した当時は初代校長の和栗先生で、教務主事が私の上司の相浦先生でした。二人とも歯車の権威者で「実践的技術者教育に徹せよ」を継承され、「実践」を重視されました。和栗先生は「百聞は一見にしかず、百見は一行にしかず、百行を重ねて、習性となさば、その技、神に入り、その喜び限りなし」の精神で、研究や教育に取り組みなさいと教えていただきました。また、それを達成するにはまず健康が大切だと述べられ、健康法は自ら実践し、その効果を学会などで講演されました。体には玄米がよく、それを100回噛んで食べなさいとか、又は乾布摩擦しなさいなどの健康法を力説されました。当時、私は20歳代で、健康法にはあまり関心はなかったような気がします。しかし今はその重要性を悟り、私なりに自分に合った健康法を実践しています。例えば、腹筋等の運動を毎日200回程度行っています。人はやる気スイッチが入ると、かなりのことがやれると確信しています。皆さんも自分に適した色々な健康法にチャレンジしてはいかがでしょうか。医療費軽減にも貢献できると思います。他方、相浦先生からは主に研究の厳しさ・講演の仕方を学びました。期日ギリギリまで実験を行い、学会の締め切り日が近づくと徹夜が数日つづき、図を描き、墨入れし、原稿を書き、時には始発の航空便で、原稿を送るために福岡空港まで運んだことも度々ありました。相浦先生の一番弟子の米倉先生からは特に人との付き合い方、社交性を教えていただき、色々な所に連れて行っていただきました。その二番弟子の廣尾先生からは特に学生に対する教育の仕方、教育法を教えていただきました。このように私と同じ歯車を研究する諸先生方でも、それぞれに異なった優れた才能がありました。久留米高専の教職員や学生の皆さんにはこのような才能がたくさんあります。それぞれの得意とする才能を束ねれば、ナンバーワンの高専にすることができると確信します。久留米高専の皆さん、久留米高専50周年記念を門出とし、ナンバーワンの高専の大志を抱き、それを実践されますことを切望します。



退職に寄せて

機械工学科 教授 松永 崇

平成元年4月、筑後川沿いに菜の花が咲き誇る久留米高専に九大工学部より転任して以来、平成の年号とともに26年間、熱工学と流体工学の分野の教育研究を担当してきました。いよいよこの3月末で慣れ親しんだ久留米高専を退職することになり、本当にあっという間に通り過ぎたようで大変感慨深いものがあります。私は戦後の団塊世代の人間で、日本の高度経済成長の中、技術屋にあこがれ機械工学分野の設計開発に携わり、その後、目に見えない熱エネルギーに興味をもち伝熱屋として歩んできました。まだまだ現役でできると思いながらも60歳を過ぎるとやはり体力・気力・記憶力の衰えを感じ、年をとるということは限界があるということも意識させられました。思い起こせば、学級担任11年、バレー部顧問14年の担当は、同じ高専卒業生の兄貴分として学生に接することができ、忘れがたい思い出がいくつもあります。また、平成14年から通算5年間専攻科主事および6年間機械工学科長として学校運営にも関わってきましたが、平成15年からの独立行政法人化、JABEE導入、外部評価などにより、学校を取り巻く環境も大きく変化し、本校も様々な改革に取り組む中で多くの混乱も生じました。しかしながら、当時目指していた各学科3本の専門柱を中心とした専門教育と技術者素養教育からなる新カリキュラムの作成、商品分解セミナー、文化ツアー、海外工場見学旅行、第三外国語(ドイツ語、中国語、韓国語)の導入などは、高専教育特有の欠点(視野が狭いことや英語力がない)を補い特徴あるものにするものであり、その方向性は間違っていなかったように思っています。ただし、学校は急激な変化を好まず、改革には十分時間をかけて議論し説明することが必要でした。次に、産学民連携推進の一環として民間企業との共同研究を卒業研究や専攻科研究のテーマとして学生と一緒に進んで行い、その研究成果を学生に発表してもらったことは大きな楽しい思い出となっています。一昨年、タイ王国での国際会議でタイ機械学会から専攻科の学生がやってくれた研究が優秀論文賞をもらったことは大きな励みと喜びになりました。さて、私はいよいよ高齢者としての第3の人生が始まるわけですが、学生の皆さんの未来はこれからです。「当たって砕けろ」のチャレンジ精神とタフな高専魂をもって進んで行ってください。必ず希望と勝利の道が開かれてくると思います。最後に、大過なくお陰様で今日まで勤め上げることができたのも、久留米高専教職員の皆様の温かい励ましや支えがあったからだと思心より深く感謝し、これまでのご厚情にお礼を申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸と久留米高専の更なる発展を祈念いたします。長い間、本当にお世話になりましたありがとうございます。



退職教職員からの言葉

人事交流を終えて

電気電子工学科 准教授 嶋田 英樹

月日が経つのは早いもので、平成26年4月から平成27年3月までの1年間、高専間交流人事で佐世保高専から電気電子工学科へお世話になっていましたが、佐世保高専へ戻る日がやって来ました。

電気電子工学科では、講義、実験・演習、卒業研究、公開講座を担当させていただきました。また、1年間と短い人事交流期間であったため学科の寛大なるご配慮により学校業務はなく、学科の先生方には大変ご迷惑をおかけしたことと思います。この場を借りて感謝申し上げます。

この交流人事で久留米高専へ赴任することによって、初心にかえることができました。まず、これまで行ってきた講義の進め方、講義資料等を再確認し、久留米高専での講義の進め方を改めて考え、実践しました。同じ高専でも教育システムはいろいろな面で違いがあり、当初は、試行錯誤しながら授業、実験等を行っていました。

教育システムの違いの一つに、授業開始・終了のチャイム、学生呼び出し等の校内放送がないことが挙げられます。これは、久留米高専は、前身が大学ということもあり、教育理念の中でも"自立の精神"を重んじ、学生の自主性を第一に考えられているためと思われる。このシステムによって、何をすべきかを考え、行動できる多くの学生がいるということを実感することもできました。また、久留米高専は、学生会中央執行委員会並びに各実行委員会が十分に機能しており、約一週間に渡る高専祭、体育祭における企画・運営は素晴らしいものでした。この成功は、全学生の協力なくしては成し得ませんので、皆さんの行動力、一体感を見ることができました。今後もこの伝統を受け継いでいってほしいと思います。

ここで、学生の皆さんへ一つだけお願いをしたいと思います。それは、あいさつを率先して行って下さい。皆さんは、どのような時に"あいさつ"をしますか？朝起きた時、人と別れる時など様々な場面で"あいさつ"を行うと思いますが、"校内でのあいさつ"は、行っていますか？4月から校内ですれ違う学生の皆さんへ"あいさつ"を行ってきました。校内で、見慣れない人が突然あいさつをして来たので戸惑ったのかもしれませんが、あいさつを返してくれた人は少数でした。企業等の面接試験では、あいさつでその人の第一印象が決まるとさえ言われています。このように"あいさつ"は、非常に重要で、"あいさつ"することで周りの雰囲気や和ませることもできます。これからは、校内に限らず校外においても"あいさつ"を意識して行って下さい。人間力がアップすること間違いありません。

最後になりますが、久留米高専でお世話になりました教職員の皆様、本当にありがとうございました。



退職にあたって

一般文科 准教授 河合 伸治

平成24年9月1日に赴任した久留米高専を来たる平成27年3月31日をもって退職することになりました。2年半という本科生の皆さんのちょうど半分に相当する期間しか久留米高専には勤めることができませんでしたが、校長先生をはじめとする教職員の皆様、昨年担任した2C(現3C)・今年担任した2S・柔道部をはじめとする学生の皆さんに非常によくしてもらったお陰で、実り多き教員生活を送ることができました。本当にありがとうございます。この場をお借りしまして、深く感謝の意を表したいと思います。

私が久留米高専に赴任してまず思ったことは、やはり学生の皆さんのポテンシャルの高さです。しかしながら、なまじ能力があるばかりに普段の勉強を怠って、試験の時…場合によっては追試験のチャンスももらってからようやく…少しばかり本気を出して試験を突破するも、それが終わればまた元の怠惰な生活に戻って行くという学生が多々居ることも厳然たる事実として受け止めなくてはなりません。校長先生が前号の高専通信でも引用されている中国古典の「礼記」に由来する「玉磨かざれば光なし」という言葉を学生の皆さんにはもう一度噛み締めてもらいたいと思います。いかに素晴らしい素質を持っていたとしても不断の努力を怠ればそれが花開くことはありません。現状では皆さんの多くは、持っている能力の半分も使うことなく進級し卒業して行っているような印象を受けます。すなわちポテンシャルが文字通り「潜在」能力のまま発現することなく高専を卒業していく学生が大半を占めているのです。私の授業では、皆さんからしたら過大な要求を突きつけているような内容が多々含まれていたかと思いますが、それは皆さんの本来持っている能力であれば当然到達しなければならない「あるべき」姿を示したかったからに他なりません。「水は低きに流れ、人は易きに流れる」という言葉があるように、人はとかく安易な方へ安易な方へと流れていくものです。常に現状に甘んずることなく、たとえ到達できなくても「あるべき」姿を目指して、皆さんが高専生活の中で、また高専を卒業した後の進学先・職場等々で、不断の努力を続けて未だ発現していないポテンシャルを遺憾なく発揮せんことを切に願いつつ筆を擱きたいと思います。2年半、本当にありがとうございました。また皆さんとお会い出来ることを楽しみにしております！



退職教職員からの言葉

「教育に於ける反面教師的方法」

一般理科 准教授 伊藤 公毅

2012年4月より三年間、大変お世話になりました。この三年間、教壇からは「有害」主張を繰り返してきました。私の話を「こいつは頭がおかしい」と思って聴いていたならば正解、不幸にして真に受けてしまった学生さんがいらっしゃるなら「ゴメンナサイ」と申さねばなりません。ここで、私と関わりのあった学生さんに対し少しいいわけを致します。世の中、全うそうなりをして全うそうなことをいう人は多くあります。しかし、一步引いて冷静に考えてみると「実は全うなのかどうか疑問だ」ということも少なくないのです。(少なくとも私はそう感じます。)ですから、自分で考える必要がある、ここが大事なのです。人の話を考えもせず鵜呑みにするのはよろしくない。私は、教壇から「いかにもおかしい主張」を屁理屈で理論武装して述べて参りました。聞き手は、私の話をまともだとは思わないでしょうから、棄却なり修正なり自分で判断をすることになったかと思えます。これは、人の話を一步引いて聴き考えるという動作の「練習」になっていたわけです。これを、「教育に於ける反面教師的方法」と(私は)呼びます。とはいえ、練習になったのか、「教育効果」があったのか、は甚だ怪しいですが…



この4月より私は久留米高専の教壇には立ちませんから「有害」主張に、学生の皆さんは曝される危険はありません。また、これまで私の「有害」主張による汚染の危機に曝されていた或いは汚染されてしまった気の毒な学生さんも、汚染源が取り除かれるわけですから、頭をクリーンアップ出来ます。しかし…、実は4月から私は豊橋技科大に移るのです。というわけで、またも私の「有害」主張に曝される人も、もしかするといらっしゃるかもしれません。汚染されぬ様、しっかり鍛えてきて下さい!

ともかく、学生の皆さんには「先生の云うことを鵜呑みにせず自分で考える」ことを実践していただきたい。極端な場合、教員と主張がずれ喧嘩になってもよいのです。喧嘩が成立するくらいなら頼もしいものです。さて、教員と喧嘩ができる為には、教員との力量差を縮める必要があります。というわけで、「勉強なさい! 精進なさい! 修行を積みなさい!」

退職を前にして思う事

材料工学科 講師 久保 甚一郎

私は、昭和45年金属工学科(現在の材料工学科)に技官として採用され、平成27年3月に定年退職することになりました。

採用当時、学科におられた先生の内、今も存命なのは松原、中村の両先生になってしまい年月の長さを実感しています。さらに3名の先生は在職中に亡くなり非常に残念でした。これらの先生をはじめ退職された先生、さらに在職中の先生から多くの事を学び、また大変迷惑をお掛けしたと思います。

最近、先生方は授業や研究に加えJABEEや認証評価の仕事が加わり、また事務職員の方は事務量が増えるのに人員削減は要請されて、ともに大変忙しく働かれています。



卒業生の同窓会に参加して、職場での活躍に驚かされ、安心するとともに事故や病気で亡くなられたと聞くと学生時代のことが思い出され悲しくなります。

卓球部の顧問として、九州沖縄地区大会(第27、36、45回)の担当校、全国大会(第37回)の開催校として、地域の関係者と教職員の協力で無事に大会を終ることができ、さらに部員達の努力で4回の全国大会にも参加することが出来ました。卒業後もクラブチームに所属して、今でも卓球を楽しんでいる人もいます。

ここに、無事退職を迎えることができるのは、学科の先生をはじめとして多くの教職員皆様のお陰です。感謝します、とともに久留米工業高等専門学校のより一層の発展と、皆様の健康とご活躍をお祈りします。

2年間お世話になりました。

総務課 産学民連携コーディネーター 三島 淳一郎

久留米高専には、平成25年度より2年間お世話になりました。それまで熊本高専にて産学官連携コーディネーターとして学んだことを活かし、少しでもお役に立てればと努めて参りました。

主に先生方とともにお仕事させていただく業務ため、学生の皆さんと活動させていただくことはありませんでした。しかしキャンパス内ですれ違う度に挨拶を交わしてくれた学生さん達にはとても清々しさを感じました。

私の具体的な業務としては、高専機構本部より「高専間連携による産学官連携事業の推進」といった使命を受けていたため、久留米高専の皆様と一緒に仕事をさせていただく機会が少なかったかもしれません。産学民連携テクノセンターの皆様をはじめ、知的財産化やマッチングのサポートということでご一緒させていただきました皆様には、大変お世話になりました。少しでも共に活動させて頂きましたことが、お役に立てればと願うとともに、今後のご活躍の様子が耳に届く事を楽しみにしています。

少子高齢化が進み、産業構造の変化がおこっている現代社会において、大学、高専等高等教育機関の在り方も様々議論がなされております。そうした中で、「高専」の存在意義、社会貢献性といったことをしっかりとアピールするためにも、産学官連携を通じた活動の重要性は益々高まっていくものと思われま。これからも高専機構本部の研究・産学連携推進室や九州地区産学官連携コーディネーターらと力を合わせ、是非積極的にご活動下さい。

個人的には、熊本から車で片道1時間半ほどかけ毎日通勤する中で、何事もなく勤務できたことに、ほっとしています。毎日の通勤風景の中で印象に残っているのは、濃霧により高速道路が大渋滞したことで、その時は高専につくのが数時間遅くなってしまいました。幸い一度きりの経験でよかったです(笑)

歴史を大切にしながら、変化し続けることがとても重要です。変化が止まったところに成長はありません。

これからも教職員の皆様で力を合わせ、久留米高専、そして国立高等専門学校機構の新たな歴史を刻み続けていかれることを願っております。

お世話になりました。ありがとうございます。



退職教職員からの言葉

退職にあたって

総務課総務係 事務補佐員 天本 美栄

思えば2年前、無事入学試験を突破し晴れてここ久留米高専の入学式に参加したときの新生の気持ちと同様、私も、どんな毎日が私を待っているのだろうとわくわく胸を高鳴らせ、ここ久留米高専の門をくぐりました。



業務では、皆さんの仕事がスムーズに運ぶような「影の実力者」を目指そうとしたのですが、程遠いどころか、いまだに助けていただくばかりの毎日です。ここで働く機会を与えていただいたのに、恩返しできないまま退職するのはちょっと心残りです。

かつて新鮮だったこの風景も今となっては日常化してしまいました。退職を前にすると、あらためて感慨深いものがあります。

そして、4月からはここは「懐かしい」場所。心地よく、懐かしい場所へと変わっていくのも皆様のおかげだと感じています。心から感謝いたします。

ありがとうございました。

お世話になった皆様へ

総務課用度係 事務補佐員 沖 和子

私は、平成27年3月31日をもって久留米高専を退職する事になりました。

平成24年4月に入職して、早いもので3年の月日が経ちました。至らぬ私のためにご指導を頂き大過なく勤めさせて頂いたことを大変感謝しております。



特に用度係の皆様にはご迷惑ばかりおかけし、事務経験の未熟な私に大変親切にご指導をして頂いたことを大変感謝しております。

久留米高専を退職するにあたって心残りなのは、毎週水曜日の昼休みに開催されている書道部を辞めなければならない事です。日々、家事と育児と仕事に追われる中、趣味というものが生活から遠ざかっていましたが、3年間継続する事ができ、そろそろ書道を趣味として公言できる時期なのかなと思えてきた頃でした。また、書道部は、笑いの絶えない?? 愉快な仲間の集まりで、この1時間が、心癒される貴重なひとときでもありました。

これからも自由に使える時間を作り出す努力をし、好きな事や趣味、あるいはもっと自分の人生を有意義にする事ができたらと思います。

今後は、久留米高専で培った経験を活かし新天地で頑張りたいと思います。3年間、大変お世話になりました。

最後になりますが、久留米高専の益々のご発展と皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

お世話になりました

学生課図書係 事務補佐員 緒方 義信

工業立国日本を背負う高度な技術者の教育機関として設立された高等専門学校が平成26年に創立50周年を迎えました。本高専でも祝賀会や記念行事が開催されましたが、私も30年程前に出向した都城高専から案内を頂き、毛利衛宇宙飛行士の記念講演会や職員OB会に参加致しました。都城高専勤務時代今では考えられませんが人事院勧告が不完全実施の時代で、地元出身の職員(組合員)の反発が異常に強く、学校行事に非協力、隣接する宿舍での付き合いは皆無、等々、出向した職員の中には家族を故郷に返し単身赴任するなど、寂しい思い出が沢山ありました。今回OB会で当時の組合幹部から「あの頃は嫌な思いばかりさせて本当に申し訳なかった、謝って済むことではないが、非礼の数々を許して下さい」と謝ってくれました。このことで30年間の重しが取れ福岡へ帰ることが出来ました。



平成24年に久留米高専図書館に採用の際は、大学と高専での図書館経験を自分なりに生かそうと考えておりましたが、結果的に何の役にも立てなかったことは悔やまれます。

私が図書館に採用された年に図書館が改装、耐震免震構造の建物や書架、人感センサーのLED照明と機能的で大変綺麗な図書館となり、翌年には本校出身の安部龍太郎先生が第148回直木賞を受賞され本校の誇りになりました。現在図書館に入館してすぐの場所に安部先生からご寄贈頂いた著作物を展示、来館者を迎えておりますが、最近先生方の来館と言え2階情報処理センターのリモコン借用に来られるくらいと大変寂しい限りです。ある先生が「図書館として蔵書冊数の絶対数が不足している。創立50周年祝賀会の費用を少しでも図書購入費に回して頂けたら」と、嘆いておられました。資料が古くて利用価値が乏しいことも理由ではないかと思えます。

昨年6月に図書館法の一部改正が行われ、学校図書館に司書教諭と専任の学校司書を置くことが法制化されました。学校図書館が教育の中で果たす役割が重要であるが、現在は本来の機能を果たしていない故の法制化だと思います。図書館に携わった者として法制化はようやく開かれた扉だと思えます。やっと動き始めたばかりで道のりは長いでしょうが学校図書館の更なる発展を期待し寄稿文と致します。

最後に以前半年程勤務させて頂いた寮生活支援係で当時の寮務主事の江崎先生に大変お世話になりました。いい思い出です。

専攻科インターンシップ

長期インターンシップを終えて

機械・電気システム工学専攻2年 江口 寿明

私は昨年10月から約2ヶ月間、長期インターンシップとして久留米市宮ノ陣にあるアイスマン株式会社でお世話になった。業務内容は製氷機の製造や人工造雪機システム等の開発と多岐にわたり、漁業協同組合、化学工業、各地スキー場など幅広い取引先を有し、国内外で多くの実績を持ち高い評価を得ている。また、人工造雪機においては国内トップシェアを誇る会社である。製氷機の製作は設計から始まり、材料の選定、材料の切断などの機械加工、組み立てまでを当社で行っている。私はその中で材料の機械加工、組み立てを主に行った。私は電気科出身ということもあり、実習が始まって2週間程は工具の保管場所、名称、使用方法を覚え、与えられた作業を淡々とこなすということが続いた。しかし、1ヶ月も経つと大まかな作業内容が把握でき、現在自分が何の作業を行っているのか、次に何を行う必要があるのかということが分かる様になり、作業を進める上でのコツを掴み始めスムーズに行えるようになった。実際に1から製氷機を作り製品が完成すると、学校の授業などでは味わう事の出来ない達成感があり、非常に充実したインターンシップを送る事が出来た。

私が、長期インターンシップを通して学んだ事は2つあり、1つ目は、期限(納期)を厳守することの大切さである。期限を厳守することは、会社の信頼を守る事に繋がり会社の利益を守る事になる。そのためにも、報告、連絡、相談の「ほうれんそう」は、非常に重要となってくる。なので、インターンシップ期間中は毎朝ミーティングがあり、作業状況や今日行う作業内容などを部署全員で把握し、シェアしていた。これは卒業研究にも言える事で、自分が現在置かれている状況を把握することで、何を行う必要があるのかを改めて理解する事が出来る。一見当たり前のことかのようにも思えるが、当たり前のことを行う事がいかに大変なことであるということをも身をもって体験した。2つ目は、コミュニケーションの大切さである。インターンシップでは、フォークリフトやクレーンなどを使って非常に大きな機械を移動させることが度々あった。機械が大きければ大きい程1人で作業を行う事が不可能であり、連携をとって大人数で作業を行うことが必要である。連携が上手くとれなければ、作業中に事故が起きてしまい、作業を中断しなければならなくなる。そうなれば、納期も守る事が困難となり会社の信頼に欠ける。このように安全に作業を進めるために声を掛け合い連携をとることが重要であり、コミュニケーションスキルを高める事が大人数での作業を円滑に進めるための一番の近道であると思った。

最後となりましたが、インターンシップ期間中ご指導頂きましたアイスマン株式会社の皆様に心よりお礼申し上げます。

NIMSでのインターンシップを終えて

物質工学専攻2年 宮原 志郎

私は、茨城県つくば市の独立行政法人物質・材料研究機構(NIMS)で2ヶ月間のインターンシップをさせて頂きました。NIMSは物質・材料科学に関する研究機関であり、「環境、エネルギー、資源に関する物質・材料研究で持続可能社会構築に貢献」を最大の目標としています。主な活動としては、物質・材料科学の基礎研究および基盤的研究開発、研究開発成果の普及と促進、施設および設備の共用、研究者・技術者の養成などを行っています。

研修ではチタン合金について試料作製から成果発表に至るまでの一連の研究活動を行いました。NIMSでは海外研究者や留学生が多く、私が所属したグループにおいても半数近くが外国人であり、留学さながらの環境下で英語スキルを大幅に向上させるよい機会となりました。研究においては単独実験を任せられ、装置群の原理から操作方法まで完璧に習得でき、また考察にあたっては関連論文の調査から理解力を深めるといった研究者として必要なスキルを習得することができました。この他、講演会やセミナーへの参加、グループ内の研究見学等、自身の研究だけでなく幅広い分野の知識も深める機会を得ました。

今回のインターンシップで学習したことを集約すると、先を見据えたスケジュール管理とコミュニケーションスキルの重要性の2つです。本研修ではわずか2ヶ月間と時間的余裕がなかったことから、一連の研究活動において如何に効率よく計画を立てるかが重要でした。コミュニケーションスキルは英語スキルに強く依存しますが、セミナーやグループ内での学生間や職員間で意見交換が盛んで、これらが多くの研究成果やグループ内での研究活動のスムーズな運営につながると実感しました。

NIMSでの実験やセミナー、英語などすべてのことが刺激となって自信や向上心となり、非常に貴重な経験をすることができました。ご指導して下さいましたグループの皆様には、心より感謝申し上げます。



学生寮成人式

電気電子工学科 5年 鹿毛 俊貴

1月14日に、学生寮で成人式が行われました。私たち学生寮の新成人のために、各々の地元の成人式とは別にこのような会を催していただきまして、誠にありがとうございました。お祝いと激励の言葉をいただき、未成年代表の堀君、およびご出席いただいた皆様に感謝申し上げます。

私たちが二十歳を迎え、多くの者が進学や就職など自らを選択した未来へ、今、羽ばたこうとしています。新しい世界で、私たちが頼りにしていくものは今までの人生で得てきた経験や知識、また、寂しくなったときには、この五年間でつくったたくさんの思い出に頼ることもあると思います。そういった今後の人生に大きく影響を与える青春時代を、私たちは「寮」を中心に生活してきました。上級生から理不尽に怒られたり、辛いこともありましたが、ここで出会った最高の仲間たちとそれらの困難を乗り越え、自らの強さとし、大きく成長しました。

ですが、人生においてはまだまだ未熟者です。今後は更なる向上心を持ち、この五年間で得た力を活かして、日々努力し、邁進していく所存です。

今日、私たちがこうして集い、ここで成人式を迎えられるのは、導いてくださった先生方、生活を支えてくださった食堂の方々、事務の方々、そしてともに歩んだ仲間たちのおかげです。この感謝の気持ちを忘れず、力強く、たくましく生きていくことを誓って、新成人代表の言葉とさせていただきます。



予餞会を終えて 予餞会実行委員会委員長 生物応用化学科 4年 宮崎 凜

平成27年1月24日(土)に本校第一体育館で予餞会が開催された。

文化部発表会、高専祭に続き、毎年恒例となってきた「5年生を送りだす行事」としての予餞会。昨年度は5年機械工学科の山口大介さんが委員長を務めたのに対し、今年は4年生が委員長を務めるということで改めて5年生を送りだすという趣旨に沿った形になった。

毎年、文化部発表会や高専祭でできなかったイベントをすることによって予餞会独特の雰囲気を出しているが、今年のイベントはあえてオーソドックスにクイズ大会とジェスチャー大会。ただしゲーム枠としてWii uのマリオカート8を入れることによって予餞会ならではの雰囲気を出した。

また、昨年度は5年生コンテストとして各学科の5年生に出し物をしてもらうイベントがあったが、今年度は団体コンテストとして、学年学科に制限を設けず出し物をしてもらう形をとった。ここではやはり、毎年文化部発表会、高専祭に出場している「アメリカンジョーカー」が目玉を引いた。メンバーが主に5年電気電子工学科及びその同期入学者で構成されているためおそらくこの予餞会が最後のステージとなっただろう。その最後のステージにふさわしいと言ってはなんだが、高専生活において最も苦悩したであろう「再試」を題材としたコントで会場を盛り上げた。

昨年度と違う点としてもう一つが、バンドの出演である。今年度は2年生から5年生まで計6バンドが出演し、高専祭に出場したバンドから、予餞会に向けて結成されたバンドなどが会場を盛り上げた。それぞれが別のバンドで活躍していた5年生四人で結成されたバンド「さいたま紅さそり隊」は圧巻のライブパフォーマンスで会場を沸かせ、5年制御情報工学科のメンバーの5人で構成されたバンド「THE BEAT GRILL MONSTER's」は卒業の定番ソングを熱演し、より一層予餞会らしさを演出した。

多少のトラブルがありつつも、5年生に向けた担任の先生方からのメッセージや思い出の写真を映したショートムービーや抽選会も無事盛況に終わり予餞会は幕を閉じた。

今回委員長を務めて特に感じたことは、「先輩方の偉大さ」と「下級生の成長」である。予餞会実行委員会は1~5年生までで構成されていて、作業の中心となって動いていたのは下級生だが、有事の際には先輩方の指示を仰ぎ対応していた。私は4年間実行委員会に所属しており、先輩方のすごさは自然と分かっているものだと思っていた。しかし、副委員長を経て委員長となり、大勢の前に立って指揮をすることはとても難しいことであり、そして辛いものでもあったのだということを改めて感じさせられた。こうして、卒業するまでの残り少ない期間でこのことに気づけたのは幸運だったのか不運だったのか、もっと早く気付いておくべきだったのかもしれない。このことを無駄にせずこれから学生生活で生かしていくことが、5年生を送りだすことにもつながっていくと私は今思っている。

そして、下級生達の作業をしている姿を見て、私はどこか安心感を覚えていた。高専祭のときまではまだそんなに頼もしくは見えなかった下級生達が積極的に自ら作業を行っており1~3年生が共に作業をしている姿は、非常に頼もしく見え、これからの実行委員を背負っていくにふさわしい姿となっていた。

私も今年度で実行委員を引退し、次の4年生たちが祭事ごとを取り仕切っていく。予餞会で見ることでできた頼もしい下級生達が作り上げていく来年度の祭事は、きっと今年度とは違った楽しさを見せてくれるだろう。その時は私も無事に進級できたら1人の5年生として、送りだされる側として、精一杯楽しみたい。



平成27年度 学年暦

前期

4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月	
日	曜	日	曜	日	曜	日	曜	日	曜	日	曜
1	水	1	金	1	日	1	水	1	土	1	日
	春季休業(～4/6)		水曜授業								
2	木	2	土	2	火	2	木	2	日	2	火
3	金	3	日	3	水	3	金	3	月	3	水
			憲法記念日								
4	土	4	月	4	木	4	土	4	火	4	木
			みどりの日								
5	日	5	火	5	金	5	日	5	水	5	金
			子供の日								
6	月	6	水	6	土	6	月	6	木	6	土
	開寮(10:00)		振替休日								学校説明会(佐賀)
	入学式										
7	火	7	木	7	日	7	火	7	金	7	月
	始業式、オリエンテーション、入学式、4、5年生、専攻科健康診断、専攻科講義開始										
8	水	8	金	8	月	8	水	8	土	8	火
	前期授業開始		1年生合宿研修(5/8,9)								
	1～3年生定期健康診断(午後)										
9	木	9	土	9	火	9	木	9	日	9	水
											全校集会(専攻科生除く。13:00～)
											前期授業終了
10	金	10	日	10	水	10	金	10	月	10	木
											前期定期試験(～9/18、7日間)
11	土	11	月	11	木	11	土	11	火	11	金
12	日	12	火	12	金	12	日	12	水	12	土
13	月	13	水	13	土	13	月	13	木	13	日
			午後クラスマッチ(本科午前中に午後の授業、午後授業なし)*								
			クラスマッチ(本科授業なし)*								一斉休業日(特別休暇)
14	火	14	木	14	日	14	火	14	金	14	月
											全国高専体育大会(8/14～30)
15	水	15	金	15	月	15	水	15	土	15	火
16	木	16	土	16	火	16	木	16	日	16	水
17	金	17	日	17	水	17	金	17	月	17	木
18	土	18	月	18	木	18	土	18	火	18	金
	開寮記念日										
19	日	19	火	19	金	19	日	19	水	19	土
20	月	20	水	20	土	20	月	20	木	20	日
	公開授業		学生会大会								
21	火	21	木	21	日	21	火	21	金	21	月
22	水	22	金	22	月	22	水	22	土	22	火
23	木	23	土	23	火	23	木	23	日	23	水
24	金	24	日	24	水	24	金	24	月	24	木
											特別教育期間(9/24～9/30)
25	土	25	月	25	木	25	土	25	火	25	金
											教職員健康診断
26	日	26	火	26	金	26	日	26	水	26	土
27	月	27	水	27	土	27	月	27	木	27	日
			暴力団排除教育								
28	火	28	木	28	日	28	火	28	金	28	月
29	水	29	金	29	月	29	水	29	土	29	火
	昭和の日										
30	木	30	土	30	火	30	木	30	日	30	水
31	日	31	月	31	金	31	日	31	月	31	日
春季休業(4/1～4/6)		新入生合宿研修を受講時数として取扱う		*専攻科平常授業		夏季休業(7/22～8/30)		授業開始			
始業式日に新入生は数学診断テスト、英語外部評価テスト		*専攻科平常授業		いじめ講習会(未定)		九州沖縄地区高専体育大会(夏季)					
8日午後:1～3年授業なし		防災総合訓練(未定)				17日 授業休業					
						西日本地区高専弓道大会(未定)					
						西日本地区高専空手道大会(未定)					